

第5期（2020年度）事業報告

1. 理事会履歴

決議事項)

- ・特になし

報告事項)

- ・毎月次事業報告

事務局では、月末の定例会で **Monthly Meeting** を実施して議事録形式で報告をしていましたが、7月より会議を行わず月次報告書形式で報告する方法に変更しました。

その他、**News Letter** による情報共有を実施。

- ・家庭用品に係る症例の月次報告

“厚労省家庭用品に係る症例情報の提供”（受託業務）に合わせ、毎月14日までに前月分の家庭用品に係る症例の登録製品について、報告を実施しました。

2. 協力医師よりの症例登録

- ・2020年度総数 593 件 ：アレルギー性 527 件、非アレルギー性 66 件

3. 賛助会員企業の募集

- ・新規入会 3 社 （2021年度退会 2社）
- ・個別訪問は行わず、問い合わせに対して資料を送付して説明しました。
- ・広報活動

第50回日本皮膚免疫アレルギー学会にて、松永理事長より「SSCI-Net2019年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」を発表（オンライン開催）いただきました。

第45回日本化粧品学会にて、松永理事長より「SSCI-Net 症例情報から見えてきた化粧品の皮膚安全性(2020)」を発表（誌上開催）いただきました。

第51回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会教育講演にて、松永理事長より SSCI-Net を紹介いただきました。

11月4日日本化粧品工業連合会「安全性評価セミナー 初級編」の講演内で、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進の説明をしていただきました。

日本化粧品技術者会誌 54巻4号(2020年12月発刊)に、市販後情報調査に SSCI-Net の活用を推進した「化粧品の使用場面に合わせた品質保証に必要な観点 -原料・商品・発売後-」（資生堂 植木拓朗氏）が掲載されました。

- ・例年、皮膚科系関連学会の学術総会において SSCI-Net 紹介コーナーを開設していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学会がオンライン開催等に変更になり、企業展示も行わなくなり、ブース出展を行うことができませんでした。
 - ・2020 年度末会員 賛助会員企業数=116 社（3 社増）、会費口数=155 口（3 口増）
- *参考：第 4 期 賛助会員企業数=115 社、会費口数=155 口
2 社退会、1 社 1 口減のため、2020 年度開始時は 113 社、152 口

4. 業務改善実績

- ・打合せや会議のオンライン開催の推進
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020 年 3 月以降は、定例会議および産学官の連絡会を Zoom や Teams を利用したオンライン開催とし、これまでの対面開催と同様の情報共有と議論を実施することができるようになりました。
- ・月次会議の省略
毎月月末の定例会に続けて月次報告会議を開催していましたが、内容が定例会（週次）で確認して進めていることと重複するため、月次報告資料を作成して配信する方法に変更しました。
- ・システム改修について
5 月に（株）ソノリテより、現在のシステムは、Microsoft InfoPath というソフトを利用しているが、古いシステムであるため早期の再構築を勧める旨の提案を受けています。事務局としても検討し更新の必要性を認識しています。現状のままの仕様で、システム再構築には 1500～2000 万円、さらにデータ移行にも数百万円を要する可能性があるため、数年かけて要件定義も含めて計画的な実施を考えています。

5. 情報発信活動

- ・News Letter の発行
毎月 10 日に発行し、延べ 12 回に亘り時宜に即した情報を関係者へ配信しました。理事以外の皮膚科医（関東裕美先生：東邦大学皮膚科）や松永理事長の AMED 研究に参加する賛助会員企業（山口雅彦氏：資生堂）にも寄稿を依頼しました。
- ・特定成分に関する皮膚障害症例発生件数の回答
賛助会員企業より、特定成分による陽性症例数の問合せが増加しており、市販後情報の一環としての認知性が向上していると思われます。一方、コロナ禍で成分パッチテストが実施し難い状況となっているようです。

成分の陽性情報問い合わせ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
企業数	3	1	2	6	2	1	4	5	4	2	2	3	35
成分数	7	2	32	18	2	2	15	24	16	4	3	3	128

・HP への情報収載

HP（ログイン前）に、「洗浄料に関するパッチテスト情報」を収載しました。洗濯用洗剤等のパッチテスト条件は、2017年に検討結果をニュースレターに収載していますが、皮膚科医や企業からの問い合わせもあり、看護師向けの希釈試料の調製方法も含めて収載しました。

6. 産学官連携活動

- ・『第15回 化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会』は、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し、2020年5月29日に「SSCI-Net2019年度のまとめ」を毎回ご参加いただいている産学官のメンバー（理事を含め39名）にメール配信し、情報を共有化しました。

- ・2020年11月11日『第16回 化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会』をオンライン開催。産官学より39名が出席されました。

SSCI-Netより症例登録実績や気になる症例を案内した他、厚生労働科学特別研究事業「感染症対策をうたう家庭用除菌剤等の実態、健康被害および規制状況調査」についてのご案内し、松永理事長のAMED研究のご案内等、幅広く情報を共有することができました。

議論においては、厚労省 医薬・生活衛生局医薬安全対策課より成分パッチテストの実施体制に関するご質問をいただいたので、後日説明に伺い、課題認識を共有化する機会を得ることができました。

7. 学術活動

SSCI-Netで収集された症例情報の研究成果を関係学会における発表

例示)

第45回日本化粧品学会 日本化粧品学会誌 Vol.44 (2020) No.3 に要旨を掲載

「SSCI-Net 症例情報から見えてきた化粧品の皮膚安全性(2019)」松永佳世子

第50回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 2020.12.22-12.24 高知（ハイブリッド開催）

「SSCI-Net2019年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」 松永佳世子

「コカミドプロピルベタイン含有試薬によるパッチテスト陽性例の検討」

飯島茂子（はなみずきクリニック）

「Japanese baseline series (JBS2015) の 2019 年度の陽性率」

関東裕美（東邦大学医療センター大森病院／接触皮膚炎研究班）

SSCI-Net 関係者内に限定した医療施設紹介

1 例の紹介依頼がありましたが、その後新型コロナウイルス感染拡大時期にあたり、来院を控えたいとの患者様の希望により、診療は辞退されました。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用実績はなかったものの、昨年度に 2 件の紹介を行うことができました。一方、課題として「①患者の診療可能な地域で皮膚科専門医を探すことは容易ではないこと」、「②医療施設を患者様に紹介する制度であるが、医療施設と直接コンタクトを希望する企業があったこと」が挙げられます。医療施設紹介制度は、試行的に実施してきましたが、大きな課題は認められないと判断できましたので、SSCI-Net の制度として継続していくこととします。

8. 役員人事に関する調整

・本定時社員総会における辞任および新任理事候補は、以下の予定です。

役員辞任) 2021 年 5 月 9 日

理事 林 秀樹

役員候補) 2021 年 5 月 9 日

理事 尾関 宏之